愚

奫

存

禀

寄界督張香帥 寄開封錫中丞 良 保定袁宮保來電 寄太原や中丞春煊寄開封錫淸弼中丞良 **奇保袁宮保** 思齋仔稟 報補遺 

寄劉峴帥 寄袁宮保 寄雲南魏 リラジンにも 美京伍太 一劉峴帥來電 外務部來電 制軍 農廉訪 - CA

寄武昌張宮保 彰德袁宮保世 北京外務部來電 **寄**津護督帥吳方伯 記を言う **司開封袁宮保** 順德袁宮保 南周玉帥 へらし コーシー 震來電 可以用雙表反

起列不馬 袁宮保來電 **袁宮保來電** 小張宮保來電 撫周玉帥 張宮保來電

寄滬呂大臣海簑伍大臣廷芳 北京袁宮保來電 **太原吳護院廷斌來電** 一海吳大臣重熹來電 端午橋制軍 宮保來電 帥 臣海寰伍大臣廷芳來電 一多七十七目录 甫中丞 八般來電 中堂 1.一思補機凝版

北方がイマラ 鄂督端午帥 **汴撫張安圃中丞人駿 殖袁道台 尿張香帥來電** 太原吳中丞廷斌 津袁宮保 道袁海觀觀察 周玉山中丞馥來電 莊制軍

まる 古事に **肯北京張宮保** 奇粤督岑雲帥 北京外務部來電 武昌端午帥 機處商部 端午橋制軍來電 撫弱小山中丞曾桂 張尚書百熙 なして二日花 可思補機減災

寄武昌端午帥 京張冶秋尚書 京外務部電 京袁慰庭宫保 袁宮保世凱來電 丁巡卿制軍振 殿來電 新 電 制軍

瓦罗马马 封陳中丞夔龍來電 開封陳中 北端午帥來電 京魏午莊制軍來電 端午帥來電 **丞夔龍來電** で、今して言意 丞夔龍 一般來電 侍 肌 一思補樓藏版

オライマ 小撫陳小石中丞來電 開封陳中丞夔龍 撫聶中丞來電 務部來電 川恩藝棠中丞壽來電 京外務部 將軍蘇嚕岱總督錫良等來電 日保來電 一山中丞馥來電 

的第三子是 江筲黃方伯轉呈魏午帥張香帥 **销黃方伯建筦** 督魏午帥 張香濤 張宮保來電 封東中丞爽龍 封陳中丞夔龍 務部商部來電 石中丞來電 一会し上二十五 日保來電 一面心脏慢拔切

津灵慰庭官保來電 工 常 黄 方 伯 建 筦 原張撫帥曾歇 師春煊 帥酸來電 制帥端無帥 張 撫 帥 **駿來電** 

寄岑制軍 寄外務部 お、民市一子で 八州岑制軍來電 津袁宮保來電 陳中丞夔龍來電 1 2 2 1 ķ **江**田四浦 婁坎 仮

開封陳中丞夔龍來電 寄蘇撫端午橋中丞 鄂督張宮保來電 寄廣州岑雲階制軍張安圃中丞 **奇武昌張宮保** 江滑端午帥 開封陳中丞夔龍 州效護無曾來電 昌張宮保來電 老力

寄美使梁大臣 寄美京梁大臣 明撫端中丞方來電 八臣良來電 一、谷九十七二条

電報補遺七十 外亦可加稅不出口者彼本不應管但彼恐釐局不撤英使催議並不願加稅如洋貨能抽十五土貨除絲茶奉蒸電垂念深 威弟喉愈尙難用心商約礙釐金七條寄保定周玉山方伯二月十六日 小議 進出口貨仍受釐害此事中國尚無定見英使近亦 鹽電已飭柯道鴻年切實函輸沙多卽云如再堅執 張香帥二月十七日 方伯二月十六日 九十七 四

豫省亦必令朱道 頃又奉篠電再電鄭道孝胥傳諭沙多 係請豫帥對調初不料其久閒也乞台端再飭鄭道對實屬可惡宣與曼伯世交豈肯縱容工師上年原 及王道福昌禀復曼伯事去夏香帥面詢沙多並命 不宜太過沙多拳匪後氣燄頗甚近又與北路孫道道往商沙多有函力拒等語誠如鈞指工師權力氣 北京袁慰庭宮保胡雲楣侍郎來電二月二十 一卷九十 回任 **巳愈慰甚關外路交**還 /無面子莫如趁早下台 查正月杪鄭 力氣 鄭

思察序桌 太原岑中 開 假 禀商敝處以後路礦各事請仍以敝處咨文爲憑 路近處開礦彼此有益惟錫樂士請開禹州煤礦 封錫清弼中丞良三月十二日 **節該員等迅速銷差趕回外乞鑒原盼復** 重無待煩言我公夙顧大局務懇速賜改歸除電 將竣是該員等北來亦無妨礙以路而論孰輕 關 不得遠派英員諒在鑒中況接詹鄺來電萍 條 一 老九十七 補進十四 手詹 前往 思補樓藏版

頃據總 保定袁宫保 查明太原至歸化應過 可設電局幾處過河幾道沿途 、早焚去洋石灰 同時發火初七 段發火三 干運木極遠約須岩 7 程 、容已飭局董 司沙多麥贊柯道鴻年電稱 四月初八 一次第一 棧 早離新樂 一所必係匪徒所 次焚燬木料 何 H 電慰帥 于里謹候電 何處 縣 里焚 爲宜計若 産 旣 一堆每堆 去便 橋 初

一展脂敢 会に出る 地方官訪拏爲首加重 有匪 處 嚴 前據孫道鍾祥禀新樂縣境焚燬木料 保定袁宫保來電 辦以示做戒 一等語前年匪亂起於鐵路个焚燬橋厰咫尺 如此星星之火恐致燎原務求迅飭防營會 柯道鴻年等電禀又焚燬料厰 座當將該令記過並飛札查究嚴緝昨續據沙 相同當派營務處提調胡守駕林馳往查辦儻 徒縱火情事卽實成該守督同地方官緝獲 アシュムー 二浦道十四 而重要工並電復沙多等知照矣 一懲辨並祈見復 四 月初九 Ħ 二思補樓藏版 一所與電禀尊 一堆便橋

寄開 尼波不鸣 前奉卅電萬分欽佩卽轉商外務部接部復電云道 路皆屬以 路旣由豫省查明恐有妨礙擬改至楊樹灣地方應 國家權利實非正 封錫中丞良四月二十 一碗礦務第八條章程切實商駁盧漢幸甚大 京外務 支附幹个福公司藉開礦造軟搬開幹路 部來電 鉛礦准由導處派員帶同礦師 理即請尊處速照外務部復 四月二十九日 Ħ

路之 辦洋 |鐵路須藉電線通靈消息旣已造路||而不准其設立 寄雲南魏制軍光燾李中丞經義四月三十 法 馬斯子室 收官商各報等情令其具結存案至礦廠 報盧漢淞滬鐵路係中國自辦尚且如是如慎省 通 建造鐵路請設電線應請尊處照復法領事飭經 線恐亦萬做不到惟鐵路設線不得與他處電 所發電報亦祗為鐵路公事之需不准帶收官 試挖本部已轉電川督查照矣 、先將鐵路所設之線不與他處電線接通並 無需設線儻須設立與我電 そとして 1 補遺七十四 局線路相隔 了思補樓藏版 如無鐵 H 附

思爱不写 岘 阻 奪鹽抛水剝奪衣扞毆傷四勇之案皖局凌道 招商輪迭次夾私幾至無船不有恃躉船爲出 江督劉峴帥來電五月初十日 查獲裝鹽蒲包簽箱 撓緝 ,務部立案外乞酌奪 帥 推夾私抗拒之處請公分別查禁賜復為禱 服盤查四月十四江寬至安慶停輪緝私弁 可得養線之費即由電局自  $\mathcal{F}$ 務禀惡電請查辦應如何約束輪遷各 月 初十 Ħ. **遷船委員史倅有嗾眾閉** 四 艙

していた 內交收 敢邀 恩 京王 查禁俟議安月容 14.5 附開 獎奉 问 將 中堂來電六月十 辦 W/....... 諭 自當派員 袁奏直 恃强等語个凌道以該員 1、浦置七一回 振獎案附出 三月月 通武弁 且當搭 片聲 思補虔裁坂 朋 謝 •

**青袁宫保六月十八日** 加稅事已 鄂復奏 諫電威悉風 添線可作罷論凱上 各國能否尤治風 可勿添桿線 大臣七月初 奉電 無礙報路可無庸目 肯照議辦理宣等明日緩甯 H 同

請 期得 其遵 東北兩公司借紙合 倫敦公會後由中俄 約足見並 元電當經照會俄使准 外 須兩 務部來電 語注意並將第三 公司 無更改之據 同日畫 月十八 同 i. 南東日上四 兩 押再請部 同有應侯 日交遷各等語現俄 現擬請 一款改為此跌減 復 H 國南定等語查貴 稱第三 兩 同 國訓條 款字樣已 國回電定 一日小前妻歌 核准 細 將盛 處 國照 並 蘵

寄長沙黃花農廉訪九月十 無權 前捐惠 寄濟南周中丞馥 ただが不写 電欲辦武官死罪是接四川 或辨斬監候可了結常德開埠日本所索已拒之 現因家嚴病危立願再捐八千雨請尊處遴 香 交路之 應 民振銀二 帥與漢口領事甚聯絡若請香帥說項必可鬆 於 同 日辦結希將線事迅速定議切勿因此 測為要 月初間交還關外鐵路俄使意在與電 イナ 干費神甚感謝牧來電該處災重 九月二十日 四 成業馬凱回國滬領事 H 致誤 線

約 京 如 然要 何匯 華 外 內 浙 務 難 泂 蒙 商 謝 部 創 在 輸 交 刪 欲 候 船 儿 程 思照 商 月二十 內 示遵單令 振 夘 能 條 如竟 極 河 可 隨 勉 派 辨 不效 同 船 陪 丽 捕掘して 更 事 郑 Ħ. 政 商 妨 朱 可 雨 所 如時 一照來電 否懇求 濟 允 光 無濟莫如 要 聯 局 端 儮 改 能 辦 好 可い前長技し 一俟試 萬 推 現 條 號 鄟

新甯去 思 英約全案當抄 田信陽漢 效再行 順德袁宮 齋存稾 |楊道 (世商約) 盼 會 切示 卷九 送隨員與議者 奏咨 部來電 得公主持大局之 及稅務司裝式楷質壁理 復 九月二 了然容與鏡翁商酌再告公回任若 海赴 山河美十十四 九月二十九日 )津較込 廣請代 H 只劉京卿宇泰黄 (速舒服) 幸美 奏 一戴樂爾 凡有相張 兩約未竣

見写字箋 **豔電**咸悉此次本擬回 起程冬月初五前必須抵津 信陽路能達汝甯許州否盼示凱准廿 識南皮臨 彰德袁宮保世凱來電 廣總督督 事宜仍 政稅項 利權 終えに、は補遺中四 行時已令海軍各船 着盛宣懷 辦各專責成隨時妥籌辦理欽此 假期姑俟抵籍後 可及 切政事着南北洋大 一十月 經鄂甯滬奠老 手經理其鐵路 初 深確道 海行候 等款購地買料 月 思補樓藏災 經過地 調但恐沿 臣湖廣

頃奉電 尼对不写 神旣處不及問心尤覺難安惟有仍乞據情代奏籲 地 下悚惶威涕伏念宣懷痛遭大故方寸昏迷鐵路 司關係交涉稍 天恩迅賜派員接辦無任急切待命之至 昌張宮保十月初 西睃鐵路須在高碑店速開岙道限期緊 (料修工事宜仍着盛宣懷 **肯盧漢粤漢鐵路總公司及淞滬鐵** 名ナー 伯重熹來電十月初八日 疏忽貽誤匪輕就令勉力支撑 手經理等因跽 安商以重欽 路籌款

寄津護 夫往觀 沈道 寄開 李維 銑巧電威悉已派鄭道孝胥魏道 **安**商照辦不准 延誤乞電 別は行字と表 鍾 接 能虎施道肇英預備快利淺 封袁宫保十月二十日 轉的比 督帥吳方伯 又電請端午帥代作主 須速開岔道遵已電飭柯道 日本已 略中國只此鐵廠頗關兵 第二七一 二浦道十四 工程 會辦宗得福伺候務求破半 司 月初 巡速與王道 王道等速與柯道等商辦 九 入暗 日 瀚 水江船專雇領港在 八政到滬亦當 公閱視 鴻年鄭道 廿四至長合迎 仁實及詹丁 し思補捜鰲 鐵廠總 程 H 辦 可 孫

維持 初為商務大臣公謂勿失商民心此事極 現款或短付票值則從此 前津袁宫保十 如歸官李文忠曾属有事 アグイ・アラ 不能開口公在 ·來華商惶急因電票本值 | 庶事承公尚有厚期非眞同志安能出此| 法保守礦地各 前十一 のでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、10mmのでは、 アイナー 一月二十四日 局外尚可發公論免被他人 一月二 件沈道呈到乞細閱須面商 平三甲 不能招股 百六 佔若如庚子何能通 7 八淆藏勿

寄津袁宮保十二月初二月 恩齋存棄 收贖憑據斷無他盧請釋蓋懷匯豐亦有別項押款英 **津袁宫保來電十二月朔** 視爲畏途所明成全示我長策耳 行股票押款事所常有道 一到期現因票價頓跌已 賢請公留意 昨有英人來告接滬電調尊處以 **云當駁以** 冬七十七十七十四 心無此事英人執以為確此謠似界 來催贖況執有該行限 |沖礦急|

香帥持論] 將為窮人殆即指此 津袁宮保十二月三十日 向懷猜忌曾與公 章只許華人授受請公刊報申明舊章洋人 南洋電稱電票大跌處有洋人收買云查電票定 冬電窮人 津袁宮保來電十二 便作廢紙 人然各省分辨尊意然否鄙見無論官辦 不以官收為然通國皆知近日眾商領南皮 7 一語毋乃太過鐵廠事必須設法維持 面談因接濟鐵紗兩廠羅掘 一月初八日 八收

ラノン ショ

費經營將來聽其廢弛未免可惜現以總理得 契務望切電敦請候有復電卽請鈞處挈名備就咨 寄甯張宮保十二月初十日 於成一百 口 一般處專送幣聘燈節前到滬以便開學修金原定 海公學屬於南洋本係 要着陳伯潛閣學養望多年足為多士於式與公至 理 兩或須酌增請卓裁學堂並有總理住宅甚寬請 北洋主持屆時宣必言之 席迄未得, 八而基礎已立經費有定 同劉忠誠奏設何嗣焜 (五日前 要表 ) 人為第 煞

京慶親王正月十三日 西苑電燈須重製 慮患甚遠請卽照辦惟此事與南洋不涉本 處專責儘可專奏鄙人 尊意先借通商銀 鄙意謂然不必由攸處 京張宮保來電光緒二十九年正月初六日 人皆不與聞未便會衝致慰帥電亦祗可 宮樞前已經陳明奏人無慮不 卷九十七元章二日 擬 行款 報郊銀三萬兩即求 八現不在鄂且鐵厰辦法 出名會電好在慰帥擔 緩借洋款以免 御 准 外 人執 係尊

馬安司子 一礦尙可爲中國自行購地或得租價或以 礦中利益均歸 美礦 單諭令姚賡 要調用只須認每月薪水川資勘完仍可還公司 秋承燭早 東撫周玉 《師本領 督張宮保來電止月二十五日 派礦 帥 一般として 公開電七十四 韶奇滬 正月二十 本省尊意如何速復 師來東以 足在湘勘得 即行繪 輪船 便 H 好礦惜 派 圖進呈敬謹 易稿六七次句 引導請示何處 ·花車軌寬若 1. 国浦安蒙 帅去任 地作股 照辦 如

寄張宮保 というとう できなる 一会 まっていない はない はないない 壁理南係閣下令其來宵非鄙 發 別駁改增刪幸皆妥商就範計訂詳細合 防損保持中國利權之處派員與之 理南携稿來甯經臣之洞復 酌 赴宵 改數語如下間有持論未妥者 並 上照改書奏咨送蘇撫會核請俟接到後卽籍 一盼電復 正月二十五日 已承照改書奏遵俟蘇撫會核咨到卽籍 約其來也 臣宣懷復屬 接款磋商 同云二 取

電響等美 萍 延 被 鄕 京 路 醴 此 小 即飭原勘 保煤礦 部呈 以為請不 湘 相連去年 由總公司 礦込賜主持定議保全煤礦隨後再議推 處 潭鐵路德國以萍礦 楽 彩金七十 中堂王 而與鐵政關係甚 得 德美使均赴 員 委 〈潘道 已擬移銀行商 整款造成體 、會同 中堂 11械學十四 學祖赴 地 部争 有德商借款美 月初十 方官禀報 鉅 蘇 至 本仍歸 潭 伏乞中堂俯念 而 面禀 因 運煤尤 日 無款 思補樓載 無憑查考 自造糖 切以 暫停 難擔 國 免免 **U** 東 廣 嬼 免 擱

甫 官 初 4 保 橋 握 7 制 設 冬 軍 頭勢極 開 器 聚眾 窿 跋 回 該 到 附 日 礦 保 釀 拜 延 IE 辱詈哨 成 用 保 11 德 甲 礦師 嬰 附 開

張為字葉 銅 省礦 巡 外務部復 面 奉 檢 最 史 産 奏奉 政: 爲 來電 採 電 刻啟 丞 真肌 與鄂交界處所既見 壓 法懲治至初 取 一月十六日 保護 上補贈上四 三月初三日 旨 奪現據 解請電咨前來查 旦刻開 設 交界之 實 鄖 典安府 便 高碑店進 曰 銅 思補被 涧 現

ドラジイ 同方能一 憂甫過百日似有忌諱也 正 太原吳護院 一大本盧漢支路軟徑 걸 月遷就窄軌將來轉足 月能一氣貫注轉輸到 不可進京餘 廷斌 赤早與尊 將來轉運室礙 來電 俟面罄並 意相符至僅 利 寬狹必須與京榆盧 三月初五日 便如 先詳告孫道等公 於此時冀圖省 出 晋 師

呂大臣海 輾 處 晉當派員 均未諳悉 Ш 里 如不獲納商約 建橋 轉勞費 派熟悉鐵 学し! は補遺七十四 敬 會 مخ 命已 便者 繞避 路人員並帶同銀行洋員來晉細 一大臣廷芳三 一鈞裁 晉 具解摺 中向無熟悉鐵路之 三冒昧查勘勞商無補應請 田廬墳墓商路如 錯 政 |月十二日 府堅 爽 阻 上思補 何逢 灣取 面 如 何

餘請速 アルイ 據港局 回 附 沙寄 海吳 **滬與**公 股聽 걸 約 新款 並 將 酌 道 憲定章程遵 臣 海寰伍 尊擬辦法 重惠來電三月十 辦較 近議各端除日達外務部 剴切曉諭均皆悅服並無異 元電稱陳道到港 **函寄務** 省 周 辦等因謹奉開 詳 折 願 一切商 細 一將美 画示以便逐條 `M 日 會 H 20.00 新 同傳集 月十八日 可取問 送 約 办

見ば己子ぞ **苑**謝 甚佩惟民間不肯呈驗契照者蓋恐遺失鄙意 尊意安陽水田照直隸按契發價辦法以歸 開封張安帥人駿來電三月二十五月 謝 民間交地方官轉呈如有遺失由地方官補 三公蒙 黄村袁宮保來電差異門十十 籌善策並盼公竣早旋 間自樂於呈驗而購地委員亦省許多饒舌尊 恩摺巳由蓮府代辨請三公明早八鐘前到 恩勿誤 一学に 一 ご 補遺 中四 恩賞福宇袍料杏芸二公並交部優議 日日 一思補樓藏版 並致胡侍 有神 盆 郞

寄滬道袁海觀觀察四月初 外部行文戸部數 (原吳中丞廷斌四月十三日 不参活筆更無辦法 銀行禀用窄軌則繁盛市場緊要礦 不及英允十年還銀各使堅執給分票後再議 則須專擇合宜地勢不易任便逕達等語 可用寬軌之處該行代雇一 為然並 語極好已請 帥何 日 部電 如 程 詢 司出月 口均可開 可

**預庚電忠義之氣** け、ストエ 賴 電 江甯魏 看美如 面交 牽 制 SE 台五月十 部閲 何 項城以營口商埠亦未交還 所當 制軍 同深敬! 躍然紙 都 風元機器難移已代達想各省皆 與外務部商定盼復 四月十五 佩廕使復電 1 浦貫七十四 地安員迅速 日 並 前 敬 日 來京面: 如 何 可見 似有誤會 江西浦樓 **外**病 請電 通商無盆 詢兩路情 能

昨 北 新裕回 奉 京張香帥來電五月十八 被 马 國議 知驗 務部裁決袁慰帥 電 肯 病洋 較便美質 商動 滬 商約在京會 所患係痰 稽時日自 誠 人俾免 願否 免推到外邊 留難 議 在咫尺五 外務部 成甚禱 公使 H 並 「京會 非時症 電 電 並 商 甚 想 致呂伍大 達覽 度 隨 時 日

寄汴撫張安圃 頃據沙多面稱加利佛耶 引を行う 採煤礦 無 卽 如 道 各節 可了案] 速與法領事切實 盧漢公司被告不直沙多 津袁宮保 原告禀控已 據總 議 情形係為將來行車 乃開 がおして 中丞人 閏五月十五 公何 一衡兩洋 程司沙多禀 加利將反控 、駿間五い (辩駁詳) 11 辅助七十四 並 祈 日 轉運 不願 復塞羅子在 示情形總以得直 公司無故撤差並 月二十九 無不合之處 法領事 起見並非開 出場等語乞 て思補農戦災 H 津關道 座山 採 卽 帶 飭

剄 並 非假 未議 羅 異 及築造 帶産石 冒該 能舉行況開礦築 七段添購地畝據查 子擅行辦理郾 帥六月初二 老 傳集各地戸領 處 轉節 迤 支路 極 戸或因 凡緊要 城許 路 日 靳 縣 造 所必 實 支路 **头 舟 照 源**河 為創設車站貨 程 已赴遂 如此重 向皆禀明督 (需塞羅) 輕聽訛傳 字前往 平藉 事 禀等

寄開 思离子浸 郎 尚橋西 封陳 太 來 川 煜 東 弘 電 周 採石事照尊電的沙多 馳 能 極 石中 禹州牧堅持非五 彩绘上 機器恐到 闹 感 丞夔龍 此記數應 辨等語查 定 並 トは補選キ四 丞 派賜 局需時間 馥 南岸漫決 來 七月 電 争價 復 干文 仍派宗令得福代 何價 七月十九 持平 停 九 災固 A 厰 與虧太鉅懇 力 給 七 思補 重 H 頃 據沙 游費 

ボデルス 村 平陰 濮 源 敷 拯 Ħ. <sup></sup>州次之 極少焦 7 救 分布轉瞬嚴寒冬春兩撫為 百村烟台火災傷 並 曷勝威盼 雖經擇尤散放急振無 帶河湖相連 小阿等處 七月 漂沒 八尤多他 一與嚴 被災亦重東平 日 H 隄 M

**寄武昌端午帥七月二十三日** 遵俟俞道來滬詳酌仍當隨時請示美約因有奉天安 見知子這 **東開口岸事須八月十八俄兵撤退之期方能畫押約 秱擬密寄尊魔** 稅事應預擬兩種辦法以期可分可合萬分敬 能見面派委漢局總辦香帥回任必致枘鑿於路 局林道均不相宜如尊處實無人錢道紹楨現適 昨與司道談及始知林訪西與香帥在與決裂 湖北端午橋制軍來電七月二十三日 回省請照前面派錢道接辦何如所酌復 一般 七十二 補選十四 = 思補樓藏版

尼 安貼遵即會銜札委今晚寄鄂如不須赴宜交代請 **育能否設法酌凑聞同鄉潘道民表到杭** 來滬 浙撫翁小山中丞曾桂八月初四日 東放振乞傳諭該道速來滬 沼不 西與香帥 京張宮保八月十四 **汴洛合同所添郵政各節** 京外務部來電 行此差我一 不治微公言不知承允派錢道接辦最 周玉帥電 八月初五日 如此慎重亦可見人才之難 日 因山東災重屬弟 可照准 王帥 卽

來新 開 軍機 完畢公約 為忠誠公所格 兵之藤 處 京撤 政 均蒙 舉行 商部 兵後通商 月派 九 所 而 何 約 調妙 月 附 理 日出京 要差 刨 初二 別 件 如鐵 得宣懷 頮 偶得之 雖 日 路局 時 辨到 造 收 就 權量 儻 於

寄粤督學雲帥九月十 問與嚴復相等而精· 在議約未及遣往此外尚有候選知府伍光建 街承齒及顏汗俄日交通後患更甚如 京東部張尚書百熙九月十七日 可羅致 辦理學務温道似可勝任去年大學堂 可擇尤保送數員聽候選錄 ノ宣懷平日留心陶淑意中尚一 一卷之 力過之現在張燕謀 一月 

寄京張冶秋尚書九月二十八日靈柩回常州原籍安葬事畢即回上海差次謹奉 聞 貝充商約使臣約兩月來滬現無事宜懷 日本已 京外務部 日商約今日已派楊文駿資秦來京德 、計云加衡候部行知方能具摺謝 示 八由瀋來稱俄兵在省城不多市廛不驚但 與俄使商議六次現因日皇閱操暫停議 顧侍郎肇新1 十五日 一月初一 日 恩文何日 即日奉故 國剛 剋 納

寄武昌端午帥十 **郑堂鐵政之幸** 礦價此係商礦自己籌款為國家與利便盆無過 及南皮宮保矣年運七萬噸及官商 問由我做主此次合同斷無流弊然終屬 ·面牘諒邀鑒嗣 應請大部主持巡速核復以免日本變卦請 補寄其詳已 皮別存意見失機可惜彼去年電稱鐵 月初七 一般入咨內彼買我礦石如得 部江電昨日詳復並電 H 界限均已遵 思補樓

**寄京外務部電** 抵補字桌 正太售票事道勝催復甚切並稱若欲多存上 卽訂期簽定 面商總期款不虛糜工歸實際 盆增已拒之日散議院以力攻政府故聞俄復 書不滿 畫諾再遞自是正辦摺繕竣初五卽往津東事增 函謂俄懼於日有意轉團而欲賣情於我別索利 朔江電蒙闘切至咸項城外面雖要好中不得 京楊道文駁來電十 一一一一一七神道十四 日意日再駁復脅以兵力尚不知若 至深咸盼該廠如何辦法容俟開春到鄂 十一月十五日 一月初八日 一海道勝 何

寄宿魏鄂端閩李粤岑川錫旗丁各制軍八 舊並告各國 日本商務惟不得在韓之南固守礟台 在滬行甚願 分別云乞速核示 、密交俄復日本五款 在韓境之 十奇羅 궠 不得商議惟日本所有商務利益可以 内作為局外地日俄均不得築守礟台 而法行不願旣允回息四釐半實亦 南可以為所欲為一 約所有利益亦照舊云似此俄於東 日在韓境原有利益照舊 韓之內地不阻 鴨綠江 月 月二 無甚 圖

**寄京袁慰庭宮保十二月初二日** 愚常字稟 黃河橋事咨函想已達寬尊意如何極盼詳示杏城談 及津鎮合同已經議安行車事尤為加意深佩蓋籌粤 酌 正想設法補救請將津鎮合同巡速錄寄一 利益俄經擅許其蔑視中國為所欲為已自顯然 俄復日各款東三省事日不得議而於各國所有 如果尚未畫押乞將行車一 日本作何應付中國處此究應如何仍懇隨時電 雲南丁巡卿制軍振鐸來電十二月初一 示 一年 七 神道十四 一款先行錄示決不漏 **多思補機藏版** 分俾資 Ħ

洩 オライア 又十二月十九日 約本咨文已收到分送訖請告星翁昨晤伍憲云 黃河橋事已飭津榆路局考核大約無不可行津 北京楊道文駿來電十二月十七日 法出調停或可轉圜香帥聞十九出京在南皮度 鎮合同草稿容飭錄呈即寄 天津哀宮保世凱來電十二月初三日 伍憲云俄復日書措詞雖婉而仍不認東省爲中 F2

看跡 事雖守局外內地勢必震動各省切須保護各國洋 財産生命萬不可礙及教堂致使他國藉 民等平理 函計覽所敘之事附片為宜俄 京陸伯夔侍郎十二月十二日 須防法 國 聞俄皇不願 謹聞請告 山東須防德長江西藏須防英應請飭 1 15/W 係暗 一戰特其人。平和俄大臣 コ糠遺士一四 調停開英早亦有函 |匪稍有蠢動宜敘正摺乃 日 相偏甚緊如有戰 **三思補樓藏版** 口禍生不 一動低 測

品別不專 出京 湖北端午帥來電十二月二十三日 已在上力為解說惟 宵旰焦憂殊不能已京西幸都下初亦有此豁傳確探並無此事聞有 聞日俄昨日撤使我則 掣動全局中國今日情事安能支予 着做處已密飭文武注意此事但戰事一 俄日開戰在即尊意保護洋4 北京楊道文駁來電十二月二十三日 十二月二十四日 宵旰焦憂殊不能已京直 籌莫展奈何香帥 八戢靖内匪最為要 哥 開勢將

お名下三二号 武昌端午帥來電光緒三十年正月十八日 帥 筱圃交到奏稿 開封陳中丞夔龍來電正月二十 敝衜作速繕發矣 守局外之理鄙見與尊見略同已 目 爲保護矣前商會試公車搭車至汴想已酌定開 **廿電示悉已嚴飭丁道暨衞煇府並淇汲兩縣安** 下尙為靜謐不知戰後如何南中何似亦乞示 面將尊稿函寄南京請其削正後會尊銜及 件蓋慮周密甚個此事我無終 **雪、思補農裝**版 日 面電達魏午

寄開 六百 電遊感會試開專車漢口已定二月初三起三月 一逢三八開行沙 封陳中丞夔龍 應乞退比即批留尚所兩公有以勉之 **袁道辦理交涉深資臂助值兹多事之秋正臣** 車 圖報之日不獨做處未便尤其所請在該道 南京魏午莊制軍 人均有洋 日期希示 着ナナナ :槍樸刀聲 言阻截鐵路公司來往 員逃出界外又各處揭帖 多及禀接薛馬電淇汲鄉民聚 正月二十三日 來電 尚正 書月 † \_ 日 並 致呂 初

いきしき らき **腰**事端 威切 抽 速電筋地方查明實在情形 解散並保護前來洋人雖未免聲張但必事出有 該道 昨接 事 開封陳中丞變龍來電正月二十 司 例 方未定議工 價 丁道 平息等語正飭丁道 與工司商辦並將濬境滋事之犯拏獲究 不免稍滋異議幸已 兩電濬淇汲各縣購地民間欲照福 一司即行取用民間因而阻攔已 \* 市路上四 此甚 一徑電導處頃接漾電 動導竣事現因石 屬危急請電導處設 面解散 四 a. ヨい前妻 成 仮 F 面保護免 四 由

HAT OF SHARE LAND STORY OF THE SHARE STORY OF THE S 嚴飭地方官安爲解散 戾 與者僅萬餘張不允再發年前電懇再發 僅允開印後酌發現在尚未領 輒 山東周 匪易無如部中掣肘焦急萬 振捐部照各處 無以應屢 俟領到即行勻寄不誤明知停捐待照勸 玉山中丞馥來電 電部續發部以了 おいれる とないない ないのうかん はっちん かいしょう と ] 쿠文二 卫 月初 **分**尊處捐事旣旺 出究不知能發 一發過八萬餘張 同 津 五 局均無餘賸 H 萬張 請

寄江甯魏午帥武昌端 **問按其所陳各壩歷年坍塌實與橋** りまりること 謹密聞 謜 年輕未克當此 堋 之該工司又 程 坍塌甚多如不速修恐生奇險路局當拓 丞夔龍二月十四日 司沙多禀稱自沁河口至黄河北岸橋 會 /將河壩 曾商外部俟戰事稍有眉目 中 1 浦道七十四 午帥廣州岑雲帥 坍塌情形繪 漕聖 一類以 1. 国山湖 樓場外 為然耶 圖說帖 附 址 H

馬薄存 拓長路局儘 圖 **局籌款代修沁河** 口俄開戰之地華民被 事當通籌大局勿分畛域該工司叉以鐵路購辦 說容送察核 州恩藝棠中丞壽來 為難若由台端的屬 機緣 **滬中外官商學** 可置而不問等語弟諭以 治力す 務部商明承認 口各壩時令已 辨 電三月十一 自備石料 とううこと 頂配深之 海萬國紅十字會實為難 一在營口開辦俾被 | 迫請先電復以 四 四千方弟當即舫路 H \ 鐵路 著 並致呂尙書 河防

悲心 患等了毫 壩基 如路局為慎重 橋建壩河心鐵椿林立 係多年廢工 奉翰電適河北道在省 **撫陳小石中丞來電** 亦病沙工 別路1 能至 》/北江山 離堤尚遠 厂质 司擬拓長橋身以避之確是 14 補遺七十四 起 通 見將沿堤擇要修理 與河防無涉鄙意將來修 月十五日 連敝處當協助石 網轉徙無定恐堤病 副雅望並誌同心 支糾 電與商據稱北河 言思補樓藏版

i distributor de verdicamentos de encadar es 尼湾不 《辦其丹國稅則定於三月二 司定後再行彙奏進呈先 稅 |押瑞典那威亦經同時會畫均訂於自畫押日 外務部來電] 商定希速電復 量現在曾否議妥 卅電計達晉省自設鍊鐵厰二 尿外務部 則因該 領事巨籟達 一月十五 万十五 其餘各條日 <u>.</u> 此奉聞 H 日開辨 於 否按照本部為 曾

麦牙写透 及本屬缺城此次尤萬不可緩公等鼎力提倡於 浙撫聶中丞來電二月十六日 銀 風廣被造福無涯捐款敝處業經籌畫由弟捐銀 奏函均誦悉甚佩查晉代於孟津曾造河橋上 詩先代墊一 紅十字義舉獨吾華不與上冬曾與程道恩培 天津袁宮保來電二月十七日 萬兩以 兩以為之倡因無眉目尚未電達儻需急用 アルジュ しこ 二 新選七十四 ン應 急需但 愧菲耳 萬兩以應急需准 月內籌足匯滬 4. 思輔度減災

思秀不写 路改渡孟津與下游凌汎不同惟樂武 里 始有此患上游溜急非大寒之年不封故冬令驛 能宣洩壅潰入丹灌運達津時或有之非 建橋當不致全河受病沁水當黃河盛 生流弊似應整齊 南 京外務部商部來電二月十 溜 强北弱宜慎防北岸以顧鐵路計河面寬約五 百尺係指建橋處所而言上下游寬窄不同恐 計達十字會事准駐日楊大 勢趨向無常難收束衝之效至將河心加 律較為穩了 妥乞裁奪 (臣電稱 H 並 一帶形 因 致呂倘 建

ではるいろいう 辨齊運交何處 轉的客職威馳赴黃河與河北道 開封陳中丞夔龍二 豫 語希與小田 /禀稱 現已電詢小田 再 方能與辦前電 石壩 野心、 小石中丞來電 亦請飭河北道 稱該會設在 切妥商電 程必須請 頭適有7 切俟復 賽馬係筆誤 月十九 1. 補数十四 戦 復 月二十 筋河北 到再請大 H 石方當 道 **三**思補 Ħ

是他就不行事 認真防範北岸未聞滋事仍飭查明隨時保護 關緊要已飭韓鎮帶隊常川梭巡會 告沙多釋念至韓道國 牧潤芳馳往彈壓業 外 犯務獲懲辦惟值許州 酒等稅闖 陳中丞窦龍 務部路礦總局有案容再鈔寄 郭驛枝路章程有限滿悉數報效之 名力十七二 一月二十四日 解散一 釣與福公司 帶舉子雲集鐵路 面飭拏爲首滋 同沿途 所 議道 本立許州

即 座 鄶 擬 漾 武 若照 昌張宮保來電二月二十六日處乞酌定電示以便飭局預備 向 已下陷是明係浮沙過 即行書奏寄繳 電 」墮陷 承注感謝前寶 驛車約須幾 可無慮惟黃河橋 有不 尺餘伊所 陷高低參差全橋 形橋成後設或各柱 因 日 といりまする 昨據錢道 目 函 示黄 ,數約有若 覩 多 所下椿 深 河 打 思甫經立 面 椿時尚未深 橋 倶往 柱 秤 阻 四 水阻 柱 座内 數 月間

| 唐齊存棄 精使已 公意見相同先辨 江督魏午帥 勘 補 慎也沙多所見何如仍所電示 以 口 救之 對朝 赴蘇浙侯來遍面議後再會呂使咨復大 橋柱 入告此時常復奏稍遲不可不於此 法必須全工 野是以重 所以下陷之故是否沙深未及老土 卷九十 三月初八 銀圓銅圓子母相生務歸 届時必先 費 | 「日本の | 100 mm | 一時階 H 34十四 一鈔呈釣覽尊處復件一 律堅固穩 務請速飭沙 實確有把握 三世和 一切實 再 律 村施 安 致 歪 再

寄江甯黃方伯建筅 厰移 島原子美 帥 燕湖 聞 湘東妙在地深奧而水陸運便不僅煤鐵相 何祈速電示如有圖說卽日寄蕪湖或金陵尤 名記憶不清該處 有地寬廣可以建廠李維格議設化鐵鑪於 則 張道贊宸言距醴陵數 張香濤宮保來電三月十五日 月建六省籌款香帥慮事權 力專設 可速成若以 一門名し二二十四 月十九 厂厂源税搬款不足 是否醴陵所 無慮危險湘東亦何必另 日 里距诛州亦數 屬距水 **三思補樓**藏版 助以六省 鄙見財 口遠近 連 此 如 地

中立之例無妨儻礙難明辦即乞密辦已電商尊處等 家眷豈特存亡共感 **臨難不避深堪嘉憫擬請貴國官商公議撫邱** 帥電索圖說今晚寄上 思明辨實有窒礙 切面 商協助亦恐招搖滬 手 一撥尊處如 稱九連城之役日軍雖大捷傷亡幾及五 抑亦士氣百倍此事志在救濟 電 但彼旣有此請似難漠視若 何

有

復

即

乞

電

示

鄙

見

只

可 月二十 一請代 一紅十字會捐款係中 呈 Ħ 商約大臣呂會

民 **濱湘江粤漢幹路必由之地似太顯露不** 議在承口建造层查派日 精珙條陳雖多可採惟事由正司泉官 頃張道贊宸電禀端帥云趙次帥擬籌百萬合辨槍 會議銀價大臣精琪聞已 好字是 語核路詳圖 館並囑不登報紙是 權不免爲外 一宵黃方伯轉呈魏午帥張香帥 昌張制帥端 **彩**名七十 、所奪尊處會議宗旨 寄黃方伯轉呈矣 師三月二十六日 否請酌 11補費干四 口在洙洲上游三十里屬醮 抵鄂由鄂赴衛不日來滬 三月二十二日 主持深恐財 如何祈速電 1回思補 樓藏版 呂大臣會電

尼烈不写 )期接洽 北京外務部 准礦石出 日領小田切電稱 便動公款現據煙台報稱日兵到安東待華民實 至多五千弟即 濟南周撫帥馥來電 厚且免稅一 恤日死事家屬係商民之事與 口查貴 四月初四日 一月人皆感激請公代華商墊銀三 宮保前奉外務部電開稅司呈擬 漢口稅司因未奉總稅務司訓條 由商捐內撥還望秘勿露 産運往日俄境內不往戰地卽 四月初 H 司 國家無涉尤 並 致呂大臣

成不可遭 勘電甚願遵 廣州岑督帥春 出口為盼等因前奉大 關辦 自應准 11 肺數十四 帥 石即是 不暇弟等之 部鹽 總稅司呈擬 電咨外務 宝吧補 電生鐵 密俄 四月初 卽 五 F 可

**尼郊不**事 籌辦此會 懿頒內帑指辦 領款礙難 是請兩戰 四 月十五 國尚未 開支恐滋 許再領款開辦如終了 國 日 臣月 口實思 呂吳兩大臣會電 只救濟 二日 名實未 並 酌

礦師閩 鐵礦 外務部力請我若代彼設廠亦只能 至於謝 寄太原張撫 福 華 便知其詳 不言。这 公司堅持欲在晉省多設鐵廠 简 好手亦 恩 張 帥 摺內須聲敘現辦情 只好請部代 ラジュム 金生足堪勝任擬即 曾歇四月十六 不能 合辨 第 調若用洋人 為是尊意如何 1、補遺七十四 先着尊處前商商部無 H 總係漏 令來晉薪水每月 移作救難誠為 弟力拒之而公使在 形而就近詢毛道慶 心辨為荷 目前以速 處為限 三 思補樓藏版 巵弟處現 制鄙

Š

寄江甯黃方伯建筦四月二十日 必干預恐不喫鉅虧不止便中密告午帥 銀 經地方官定價購買其地價弟所奏辦之戸部勘礦 俟張到太原即請派 歷濟有導 公司以資歷鍊近日湘紳議廢美約梁使來電美政 公司當與晉省共之志道到否乞速復 百兩由弟代付堊將五屬産鐵礦處趕緊查明地名 圓鑄七錢一 可籌付先行抵制洋人免為所佔將來利益勘 が治力十十 一如能一律亦無不可令郎已見擬派 熟悉委員帶同勘驗得 四月二十一日 一礦

10日子 日日 帥所派至將來筆舌煩勞知所不免但能使作 籌旣與午帥晤商卽詩就近電告 煤礦 商務不入 電先已復過此 因 北京外 公家地方 <del>北</del>禀開 湘紳亦公電與午帥席道為蘇省 アルシュニコイ 、均受盆匪淺飭卽電復並囑回滬詳達 、交涉則較易辨理一切尚望力任其難 部 一辨希再與哲切商將第三條福公司 商部來電五月初七日 事深知為難能趁此挽回實賴盡 - 持謁瞿堂呈閱奉諭 ,浦建七十四 午帥 北田山市安安人 、員必是 轉致湘 云湘紳 紳

聽其去仰見重視該差尙乞 **<b> 居** 選 有 導 束後專辦行車頭緒自易清楚昨巳批函慰留鈞意 武昌張宮保 細鍼密縷行之以漸必可收效盧漢 條向英國 獨辦煤礦 同 平澤路 四 核與原議 四 一據云現辨紅上 處 選 名 カナモラスニー 五月十三日 聘下 增删 並推廣 語刪去至福公司原定合同專指孟 再行定議 至平陽府此次專條渾言 鼎言獎勵俾可安心沈 指出地名以清界限第 大臣月訂聘用 三月千木分月 程將竣結 70

管理處 路較為熟悉資勞俱深堪以 围系字是 西道員沈敦和兼習方言堪以委派該道現辨紅 滬領鐵路所需會派購地監工總辨 **小避艱難之大員殊難勝任** 个就似難勉强查潘道學祖 時不能離滬正可借資臂 (便由弟主稿會列台銜即行札委該公司現詩 **宵魏午帥端午帥** 七開了 席須逐日與洋董 | 所有會銜告示已咨送核辦矣 一、おし」は補遺七十四 五月十五日 助如尊意以爲然即 | 調充購地監丁 查有路礦總局奏調之 會議事件實非語練洋務 曾經帶同工 で 思補権 蔵じ 員沈道 程司勘過 一總辦所遺 企 所電 辭

**寄粤岑制台張撫台五月二十五日** 接辦之處伊 一翁之章接辦專省 憫側所遺文報 武昌張香帥來電五月二十九 接湘神公電與漢鐵路 無疾而逝翁守熙 約雖難辨到然購回合與公司股票則志 ) 說因公舉王衛堂 差做 感 台仰懸亦准札派翁之 -丞充選査美公司 事尊電有會奏詩 Ħ 病故身後蕭然殊 內閣

**垣 購地 甚貴其 地價能 否海關開支乞詢示** 寄外務部六月初八日 展層子震 遍甯路留地稽征是否滬蘇鎮甯四處均須留地 並電復 處地方留一 總稅務司面稱滬甯路不日開工 北京外務部來電六月初八日 奏請飭派王中丞會辦湘境鐵路事宜尊意以 何如浙迅賜裁復 袖之人以便經管規畫有所責成擬即會列台 一学、七十 日補遺七十四 適用之地以便稽征等語希照辨 一應於該路盡 **心思補樓藏版** 街

たアイル 寄岑制軍六月初八日 陽愁昨又面催白 **旋請即派候補 言免叉謂我恫嚇而彼實萬** 到奉闡 廣州や制軍來電 頃據葡領事稱接葡政府葡使電交犯 阻撓惟須粤省聲明前贩兵船並非恫嚇暨免 開 イナナー 知府方 使所言相 万怡來滬 六月初七日 來電六月初八日 分催迫矣現因路事 同此次路約未 行可否乞示 Ē 節並

思学学湾 凱承日本政府擬惠贈勲章何敢言及合意惟自 **念無功受賞實覺悚愧不安乞代達威歉之忱** 商阻甚妥甚 **福公司鐵路賣票** 汪已得三品銜道員官階亦與梁相埒可否改列 解既承垂問則就事論事汪守與梁道資勞相等 武昌張宮保來電六月十九日 東鄉厚意深可感愧事關兩國交際恐又不便堅 天津袁宮保來電六月十八日 一一大いも一」は一個地上十四 佩 品頂帶員外郎職銜辜揚生舉人選 並致呂大臣 並致呂大臣 3 思補樓藏版

寄開封陳中丞変龍六月二十日 路日內卽派華 皓電示料已運齊 尼別不 **个**建速補 慰帥與尊處是否 不能不代達 員受勲者共幾人統派示復 知縣劉邦購均隨 勇 四等請轉商此 名 心上至間: 數想不多免令藉 甚威法尺與工尺不符折算處尚 程司詹天佑等前往估驗並查 會同辦理 一律兩公及慰帥 皆係實在隨 人受之滋愧尤費躊躇 同辦事擬請給辜勲三 口至威福公司 同議約之 罕 切候示 一等給 鐵

とうこう 未接有回音派查明電示前因篠電述小田切函 開封東中丞麥龍來電八月二十五日 由內田公使核辨等語此事無關大要惟允否迄 鄂督張宮保來電 前奉豔電知福公司賣票事已函津與哲美森 可作為罷論 見商故敒處 有擬贈實星是否合意之語意謂擬而未定彼 前准六月宥電以 勿爲此說就擱他處實星爲幸 皓電有請改請補之說如有為難 小田切復稱辜劉補贈寶星應 南貴山口 ス月十三日 に目いまりませた。 並 致呂大臣

寄廣州岑雲階制軍張安圃中丞九月初四日 思濟存稟 調至深歉悵 寄蘇撫端午橋中丞九月初八日 張金生往勘甫抵太原勘辦尚需時日 務部交議鴈公司澤道鐵路因欲挽救晉省礦權 擬請假南旋所有管理行車稽查帳目事宜尊 **儻能照做處豔電所擬自可與利德安議韓道** 商現據韓道禀利德催議行車章程做處未接外 可否月派安員經理並希示復 部與尊處電示無從衡議不知公與哲現議如 老九十 七年到了一日 里 見 利松 無力 時難應

恐正可和盤託出借路井查萍礦想來華股公司皆 **青武昌張宮保九月十一** 裂我先止發借票彼卽停工挾制勢必與訟勝負難料 **圃以買股為不妥適美派一比人赴粤查工遂乘機決 卦電承垂念極處秋凉尊**恙 展落完了清 殊甚萍鄉槍廠聞有變局確否商部查路帳有洋帳 餘請飭由地方官與郡紳士籌辦為幸 「前結束約須垫款數十萬將伯無助獨力難支焦 枘 陽蒙學弟與劉道樹屏 月餘始漸愈精力大衰尚在卧榻辦事粵漢事 一多七十七浦雄中四 F 口瘡已 認辦四塾已交劉道指置 愈甚慰姪患內外 旦即補樓威阪

不能任事乞公鑒之 查之列知念附陳 カグイゴラ 認填布 督端午帥 蘇 頃據長元吳三首令 蕬 州效護撫曾來電 錢萬里橋總車 17 機器於九月十 置渠來禀槍礟廠事只能幫同考核 十月十 面陳二 十月 十九起程約月杪 免鉅工 H 中墮現由 K 到滬 務嗣 卽 歪

**育美京梁大臣誠十一** 縋公司不擔認之外請添三句云洞為三省紳民代表 一省數干萬紳民決定廢約斷不擔認此 等平平 **祈電復是所切禱** 遽飭遷移勢必逼成事端請速發價洋及章程以 緩開工俟價給章定再行開辦俾免滋生事端仍 辦理並飭知照總工程司格林森電筋伊富斯暫 便趕辦等語用特轉達務乞速飭甯滬總局遵照 卑職等雖勒限催還該民人 アジュー 一月二十八日 11.補端七十四 八旣未傾價 呈思補樓據版 張宮保會電 四百萬之 文無章程

**寄美使梁大臣十二月十五日** 尼秀不嗎 何必沾沾此路]] 多及龃龉何如銷廢互敦睦誼合與可營之 一省以合興已背合同雖允改良亦不 身回鄂承公飭備輪船火車 **萍鄉鐵大臣良來電** 良到萍後順赴安源煤礦 理精密仰見台端任用得 | 黨堅執美廷亦無如之何洞為三 一省宗旨實難轉圓猶如美待華 月初四 車龍先聲謝 至爲欽佩良本日 觀規模宏敞張道 、相信與其遷就 H 條

**寄天津夏宮保世凱光緒三十** 思知子语 律註銷以昭公道 籌速結 黨務堅婉商美廷允將合興原訂合 尊處督同滬道商辦以 語儻以兩案輕重逈殊勢難辨到始行奏聞攺由 北京外務部來電十二月二十二日 周生有案本部住電原有擬仿**英漁船案**公斷之 新恭叩福禄禧宣 一大名と十七、加雄七十四 一服闋不日北上 一期周安務希查照蒸電詳 . 年正月初 員 思袖樓藏版 同及續約 到津再昭 H

聲明惠君來華斷不與議來函所云餘利憑票及派 請轉合與公司現又奉 寄美京梁大臣二月十六日 程司均無庸議並請知會美政府 十二月廿二號照會美外部特再聲明因此張宮 地 湘 紅十字會振款湘省曾於去 **潛民貧捐事久成弩末雖經竭力督勸催收** 萬兩先行墊解原擬勸得捐款歸還無如湘 撫端中丞方來電三月初 勇 オブー **肯黃成廢約此事梁大臣** 至 因奉天俄兵初 H 月息借商款 台 並致呂吳兩

理方子子ら 籌還聯名諸公統希致意 解之息借商款 湊共足成八千兩即日匯解以應急需其上 瘡痍待振甚急只好先儘收到捐款**並由**湘挪 ランシューニュ 即作為湘省籌助之項月行 1.1 前衛台十四 11日少前 要放 反應

愚齋存稿卷第						層尼游在事
位第九十七					<u> </u>	一門台力十七月は二日
					12.55	•
						というとれてあり